

# 港区の緑

～緑を見える化する～

港区 街づくり支援部 都市計画課

i-都市交流会議2020

1

## 1. 研修参加の目的

i-都市再生を使うことの意味

◆「港区は緑が多い」ということを区民や事業者に対して示したい。

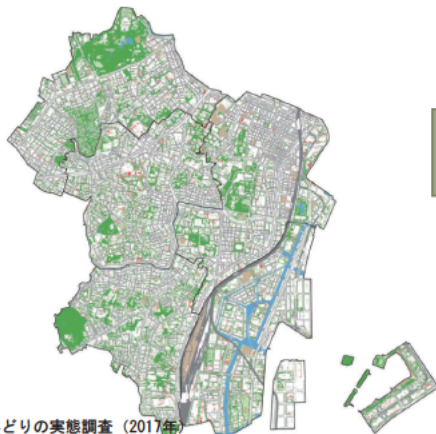
⇒視覚的な効果

◆どの場所に、どのような役割を持った緑が必要か、分析をしたい。

⇒新たな施策・課題の抽出効果

◆データの継続的な活用を行いたい。

⇒次期計画、開発事業の提案時などでの活用



港区みどりの実態調査 (2017年)



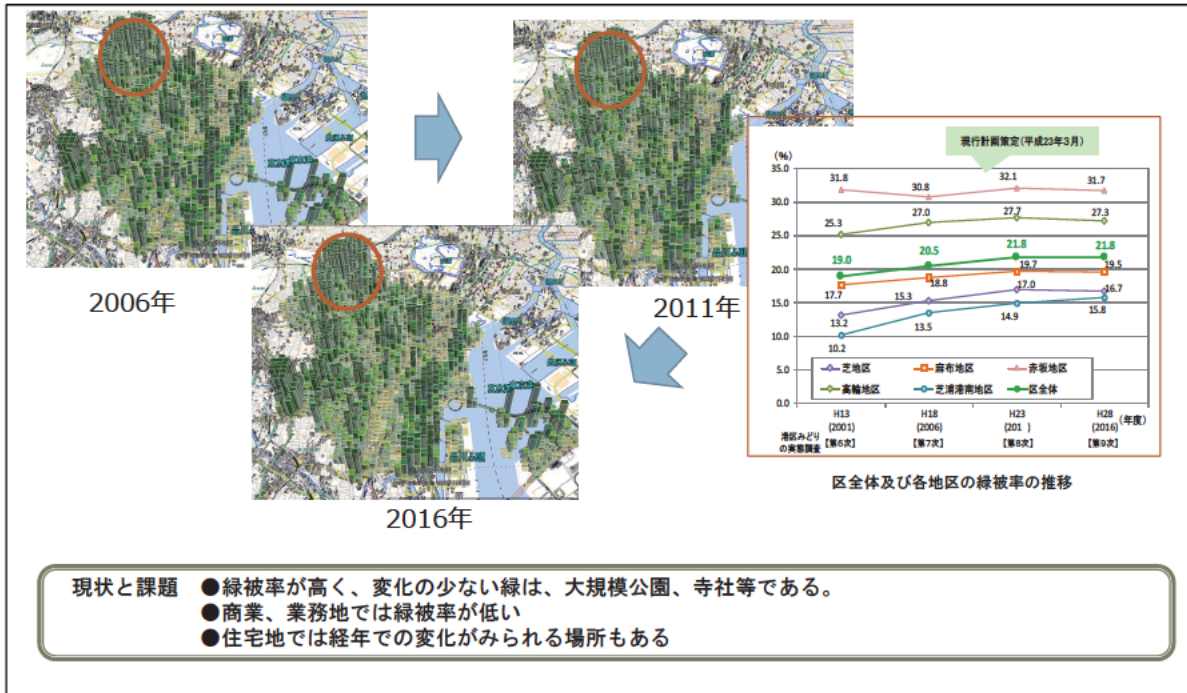
i-都市交流会議2020

補注：地理院地図を使用

2

## 2. 「緑の量」に着目した課題の分析

### 緑被率の経年変化



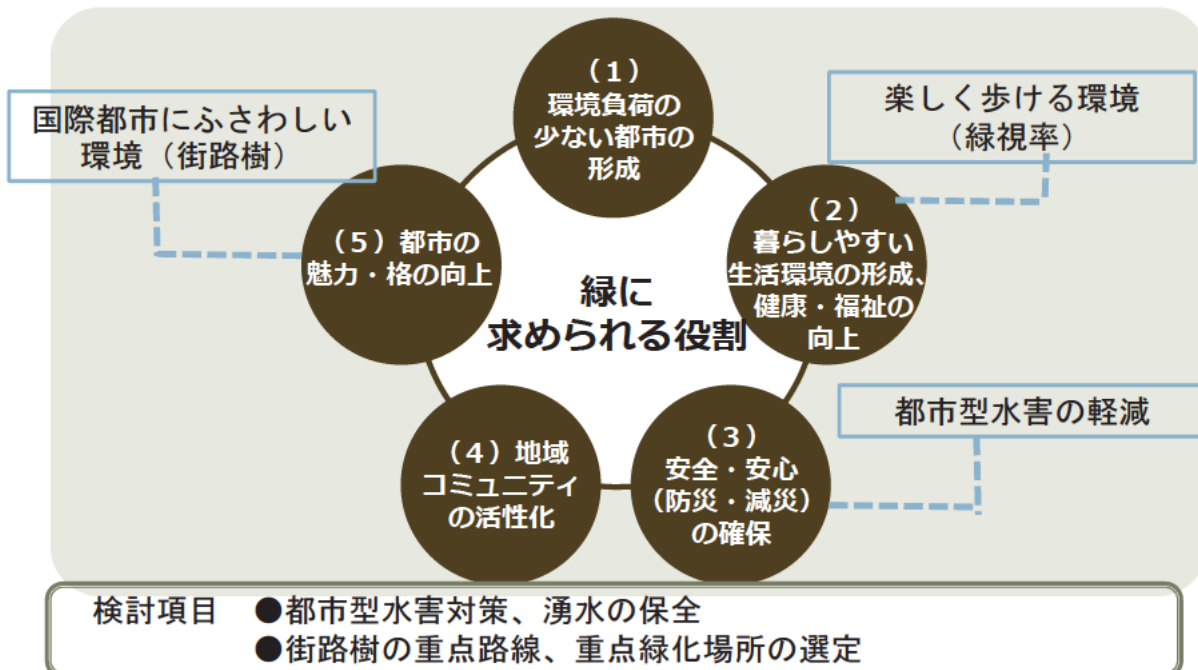
i-都市交流会議2020

補注：地理院地図を使用

3

## 3. 「緑の質」に着目した課題の分析

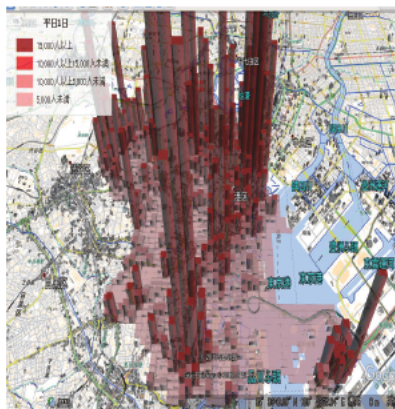
### 「緑の質」の項目ごとの検討



4

### 3. 「緑の質」に着目した課題の分析

#### 街路樹の重点路線、重点緑化場所の選定



2019年8月の平日24時間の人の数

#### 街路樹の苦情凡例



図 街路樹に関する苦情等の分布

#### 楽しく歩ける環境



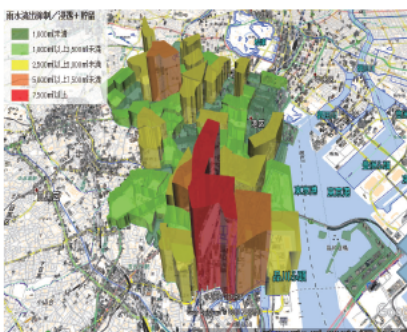
図 緑視率分布  
(佐賀大学・中大窪千晶研究室による計算)

#### 【現状と課題】

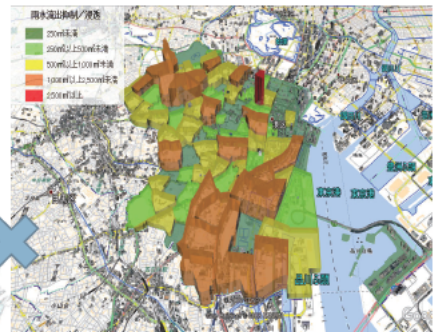
- うるおいや安らぎを感じられる**緑視率2.5%以上**を満たしているかどうかという観点から解析。エリアによってかなり低い場所がある。
- 歩行者の多い場所を中心に、既存の緑の保全と接道緑化、壁面緑化を進める必要がある。
- 商業地や駅周辺の人が多い箇所でも苦情も多く発生している。
- 今後は人が多く苦情が多い場所を重点路線として位置付けることも検討。

### 3. 「緑の質」に着目した課題の分析

#### 都市型水害対策、湧水の保全



雨水流出抑制対策量



雨水流出抑制対策量  
(浸透対策量のみ)



浸透域分布図 (2016年)

#### 【現状と課題】

- 不浸透域が多いエリアかつ雨水流出抑制対策量が低いエリアは重点的な取組が必要と考えられる。
- 湧水の涵養地付近では、積極的な浸透対策が必要である。

## 4. まとめ

### 今後の活用の方向性

#### i-都市再生によって

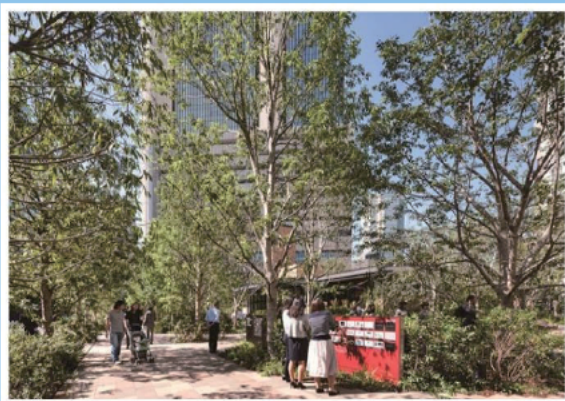
- 区民向けの説明会など、対外的に説明する際に非常にわかりやすい。量の多さは3Dの方が伝わる。  
「こんなに緑が多い！」→「ここに多い」→「このように変化している」等
- 区レベルでの活用では、メッシュの大きさを100mなど小さな単位で見えていくことが必要。それにより、その現場での課題がリアルに見えてくる。  
「区全体で取り組む課題」 → 「この場所で行う課題」
- 新たにデータを蓄積していくことで、経年の変化などを視覚的に見えていくことが可能となる。
- 可視化データとGISデータを重ね合わせることは難しく、「可視化データの方がわかりやすいもの」「GISデータのままの方がわかりやすいもの」といったデータ上の特徴があることもわかった。

i-都市交流会議2020

7

港区 街づくり支援部 都市計画課

## 港区の緑



令和元年度 港区みどりの街づくり賞

i-都市交流会議2020

8